

# 第2回(平成26年度実施) 阿倍野区の実施にかかわるアンケート

## 結果報告書

(防災・あべの 安全・安心 見守り、支え合い隊事業  
国際力向上施策(ICA)・市政改革プランについて)

大阪市阿倍野区マスコットキャラクターあべのん



平成27年3月作成  
阿倍野区役所 企画調整課(企画調整)

# 目次

	頁
I. 調査実施の概要	1
1. 【防災について】	
1-1 : 防災など危機事業ごとの計画やマニュアルが作成されていることを知っていますか。	2
1-2 : 阿倍野区地域防災計画(阿倍野区民のための防災ガイドブック)を知っていますか。	3
1-3 : 「阿倍野区防災マップ」を作成していますが、ご存知ですか。	4
1-4 : 「阿倍野区防災マップ」をどのように知られましたか。	5
1-5 : 災害時における自宅からの避難場所を決めていますか。	6
2. 【「あべの 安全・安心 見守り、支え合い隊事業」について】	
2-1 : 要援護者への支援が地域で向上していると感じますか。	7
3. 【国際力向上施策(ICA)について】	
3-1 : ICA(インターナショナルコーディネーターフォーあべの)の英語教育活動等を知っていますか。	8
4. 【市政改革プラン】関連	
4-1 : 地域での住民同士の「つながり」や「きずな」について、あなたはどうお考えですか。	9
4-2 : 日頃からあいさつや立ち話をする程度のおつき合いができる相手が増えたと感じますか。	10
4-3 : 地域団体の活動内容や会計報告が公表されていることを知る機会が増えましたか。	11
4-4 : 地域活動に参画しやすい環境が整っていると感じますか。	12
4-5 : 地域のまちづくりに関する活動が各種団体と連携・協働して進められていると感じますか。	13
4-6 : どのような時に、地域のまちづくりに関する活動が進んでいると感じましたか。	14
4-7 : あなたは、これまでに地域活動に取り組んだことがありますか。	15
4-8 : 地域の活動において、コーディネーターやファシリテーターのできる人材が活躍していると感じますか。	16
4-9 : 区役所の効率的な業務運営に向け、取り組みが進められていると感じていますか。	17
4-10 : コミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスという言葉をご存知でしたか。	18
5. その他、阿倍野区の区政に関して、お気づきの点	19

## 調査目的

阿倍野区役所では、誰もが住みたい、住み続けたいまち「あべの」をめざし、「阿倍野区将来ビジョン」・「阿倍野区運営方針」に基づき、さまざまな取組みを行っています。

今回は、**防災・あべの 安全・安心 見守り、支え合い隊事業・国際力向上施策(ICA)・市政改革プラン**に関する内容について、モニターのみなさまに、ご意見をうかがいました。

## 調査フレーム

調査手法 郵送  
調査対象者 無作為抽出による阿倍野区民の方 3480名  
回答者数 878 名  
回答率 25.23%  
調査実施時期 平成27年1月30日～平成27年2月16日

## 区民モニター数および回答者数

年代	性別	区民モニター依頼者数			回答者数			回答率
		男性	女性	総計	男性	女性	総計	総計
年代	18～34歳	580	580	1160	81	89	170	14.66%
	35～64歳	580	580	1160	166	166	332	28.62%
	65歳以上	580	580	1160	212	164	376	32.41%
	総計	1740	1740	3480	459	419	878	25.23%

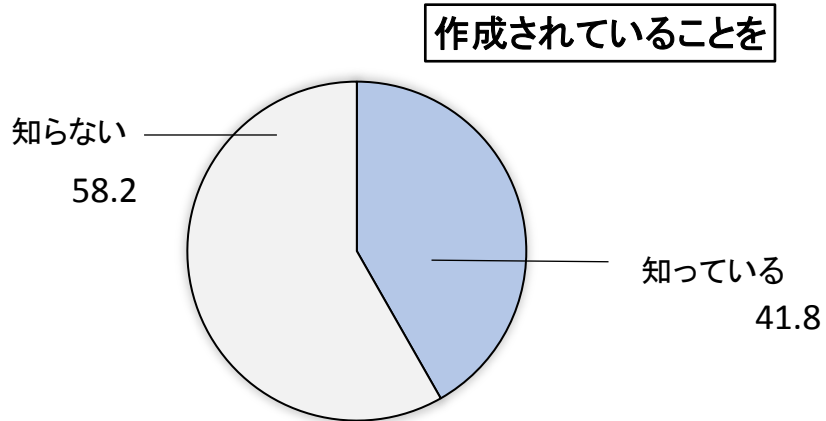
1-1 : 阿倍野区役所で、防災など危機事業ごとの計画やマニュアルが作成されていることを知っていますか。(択一選択)

作成されていることを知っている人は41.8%、知らない人は58.2%。

- ☆ 高年齢になるほど、作成されていることを知っている人の割合が高くなっている。
- ☆ 作成されていることを知らない人は若年層に多い。(男性:82.5%、女性:68.5%)
- ☆ 男性・女性とも高年齢になるほど、知っている人の割合が高くなっている。
- ☆ 男性より女性の方が各年齢層で知っている人の割合が高くなっている。

危機事業ごとの計画やマニュアルについて知っている人は約4割という結果でした。防災計画をはじめ、危機事業ごとの計画やマニュアルについて、様々な広報ツールの方法について工夫に努めてまいります。

・各選択肢の構成比の数値は、少数第二位を四捨五入しています。  
そのため、内訳の合計が100%にならない場合があります。



単位 : %  
回答者数 = 855名

		知っている		知らない		知っている計			
性別	男性	39.2	60.8	44.5	55.5	39.2			
	女性	44.5	55.5	44.5	55.5	44.5			
性別 × 年代別	男性	18~34歳	17.5	82.5	17.5	82.5	17.5		
		35~64歳	37.2	62.8	37.2	62.8	37.2		
		65歳~	49.5	50.5	49.5	50.5	49.5		
	女性	18~34歳	31.5	68.5	31.5	68.5	31.5		
		35~64歳	37.7	62.3	37.7	62.3	37.7		
		65歳~	58.9	41.1	58.9	41.1	58.9		
		446	409	80	164	202	89	162	158

1-2 : 阿倍野区地域防災計画(阿倍野区民のための防災ガイドブック)を知っていますか。  
(複数回答可)

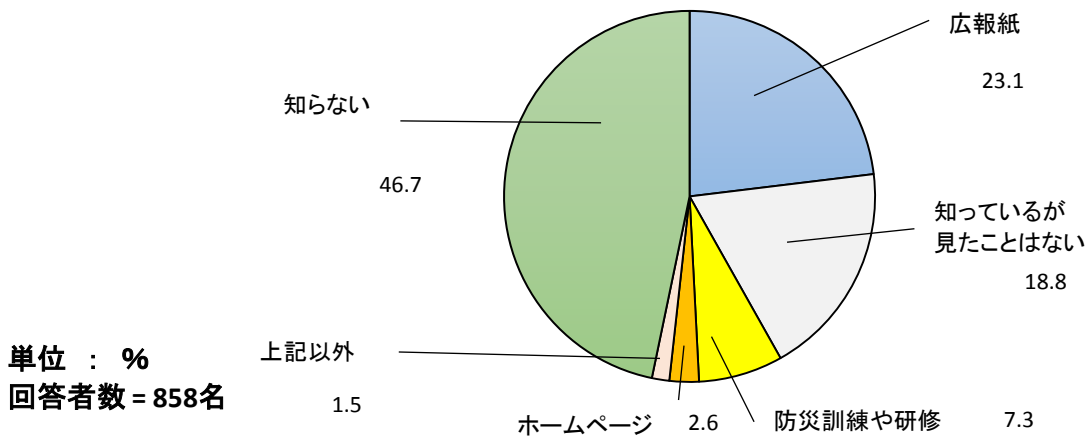
阿倍野区地域防災計画を知っている人は53.3%、知らない人は46.7%。

- ☆ 防災計画はホームページからが2.6%、広報紙が23.1%、防災訓練や研修会が7.3%  
それ以外が1.5%、策定されたことは知っているが見たことがない人18.8%、知らない人が46.7%いる。
- ☆ 上記それ以外とはTV・回覧板・職場・区役所でパンフレットから得た人等。
- ☆ 策定されたことを知らない人は若年層に目立つ。(男性:75.3%、女性:67.4%)

本取組みについて、阿倍野区地域防災計画を知らない人が4割を超え、若い世代の認知度が低いという結果になりました。自助・共助の取組みを一層充実させていくためにも、様々な広報ツールを効果的に使用し、より多くの区民の方が防災計画を活用できるような環境作りに努めます。また、防災教育や防災研修、出前講座等を通じて若い世代にも計画について知ってもらえるよう努めてまいります。

・各選択肢の構成比の数値は、少数第二位を四捨五入しています。  
そのため、内訳の合計が100%にならない場合があります。

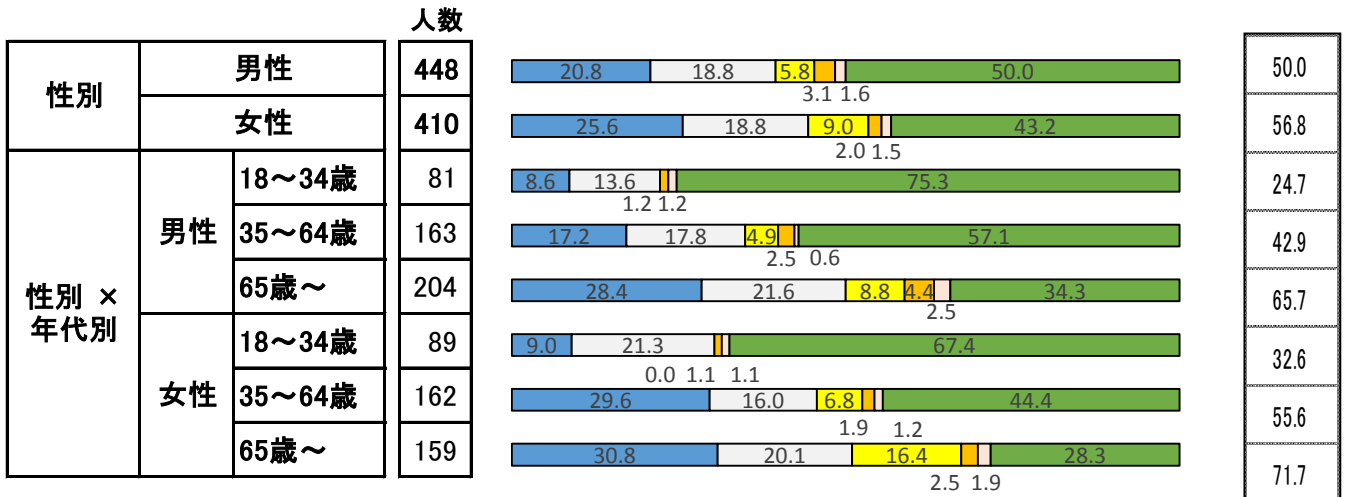
知っている  
53.3%



単位 : %  
回答者数 = 858名



知っている  
計



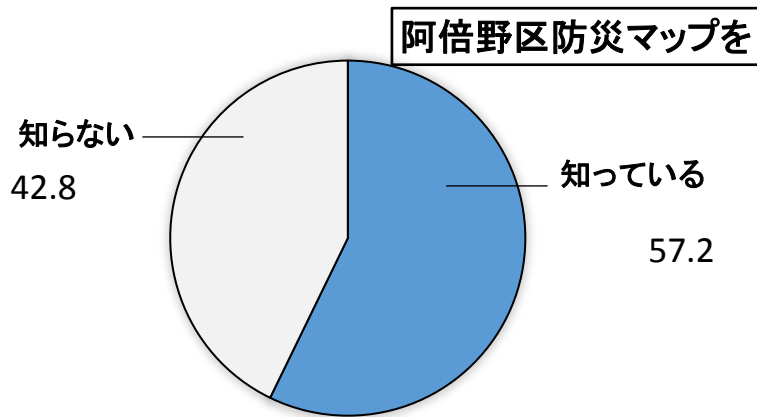
1-3 : 阿倍野区役所では、区内の避難場所や地震に対する日ごろの備えなどを掲載した「阿倍野区防災マップ」を作成していますが、ご存知ですか。(択一選択)

「阿倍野区防災マップ」を知っている人は57.2%、知らない人は42.8%。

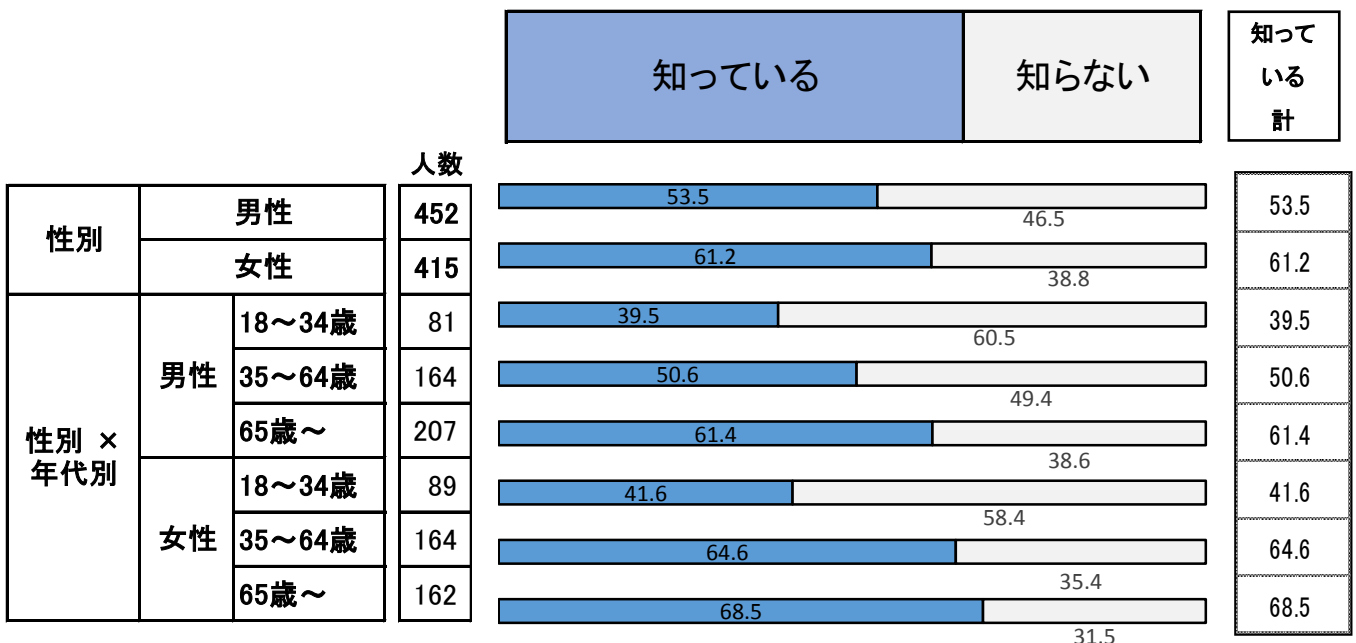
- ☆ 作成されていることを知らない人は若年層に目立つ。(男性:60.5%、女性:58.4%)
- ☆ 男性・女性とも高齢になるほど、知っている人の割合が高くなっている。
- ☆ 男性より女性の方が各年齢層で知っている人の割合が高くなっている。

防災マップの認知度については、知らない人が4割を超え、中でも若年層の認知度が低いという結果になりました。今後も、区広報ツールを活用した全体的な周知を図るとともに、若い世代の認知度向上を図るため、防災教育等や防災研修、出前講座の場で若年層や保護者世代に向けた避難場所等の周知を行うなどの工夫に努めてまいります。

・各選択肢の構成比の数値は、少数第二位を四捨五入しています。  
そのため、内訳の合計が100%にならない場合があります。



単位 : %  
回答者数 = 867名



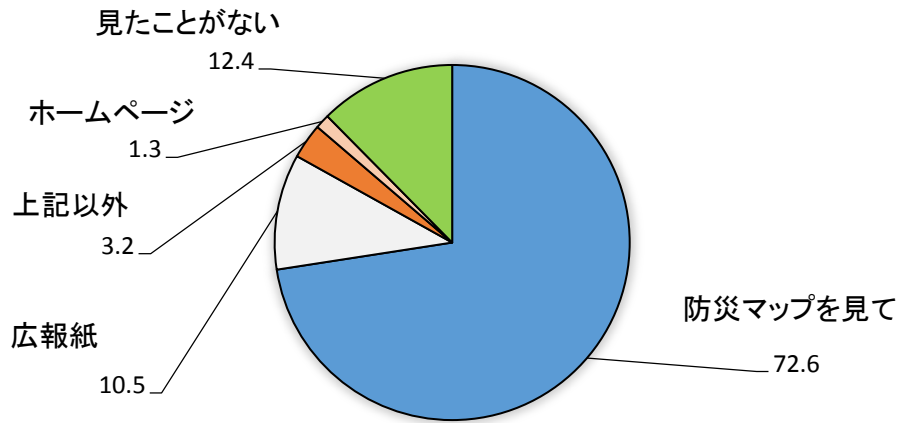
1-4 : 1-3で「防災マップを知っている」と答えられた方に伺います。  
 「阿倍野区防災マップ」は区ホームページなどでお知らせするとともに、平成25年11月に区内の全所帯に配布しました。「阿倍野区防災マップ」をどのように知られましたか。  
 (複数回答可)

「阿倍野区防災マップ」を見て知っている人は87.6%、見たことがない人は12.4%。

- ☆ 防災マップ実物が72.64%、ホームページからが1.3%、広報紙が10.5%、それ以外が3.2%  
 策定されたことは知っているが見たことがない人12.4%。
- ☆ 上記以外とはTV・回覧板・職場・掲示板・研修会・区役所でパンフレットから得た人等。
- ☆ 防災マップを見たことがない人は男性が13.6%、女性が11.2%。

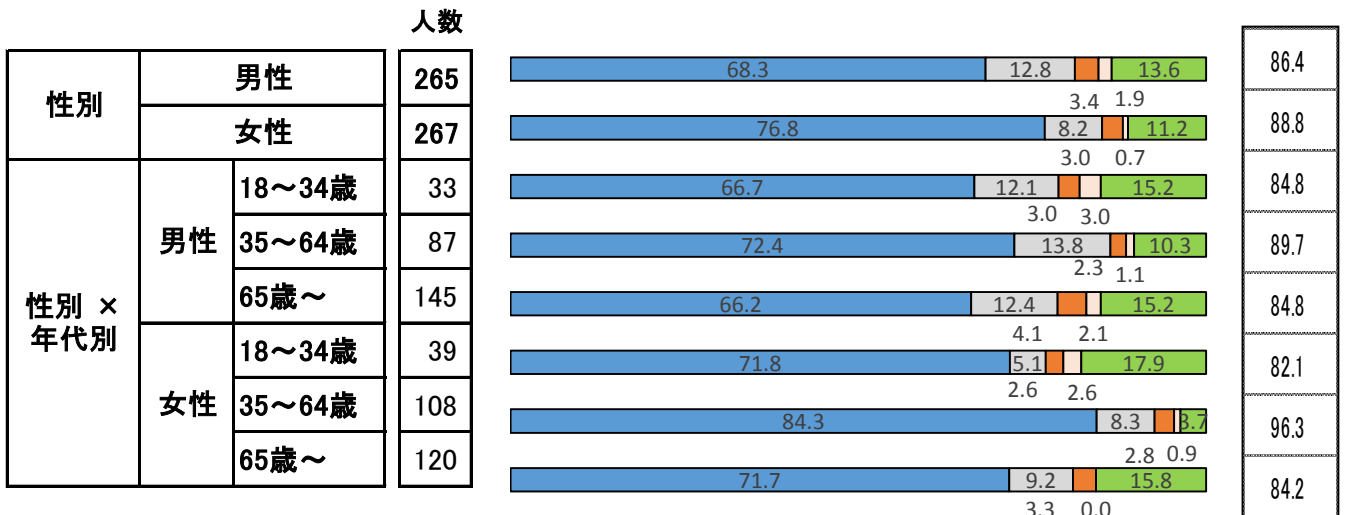
防災マップを知っている方でも、見たことがない人が1割おられることから、引き続き区広報ツールを活用した周知に努めるとともに、阿倍野区地域防災計画とあわせて、防災訓練や防災研修、出前講座等を活用して周知に尽力してまいります。

・各選択肢の構成比の数値は、少数第二位を四捨五入しています。  
 そのため、内訳の合計が100%にならない場合があります。



知っている  
87.6%

単位 : %  
 回答者数 = 532名



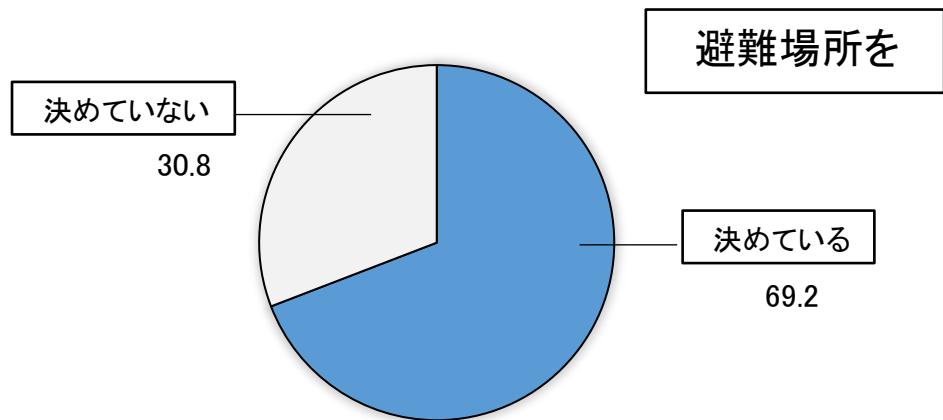
1-5 : 避難場所については、「阿倍野防災マップ」や区ホームページ、広報紙などで周知を図っていますが、災害時における自宅からの避難場所を決めていますか。(択一選択)

避難場所を決めている人は69.2%、決めていない人は30.8%。

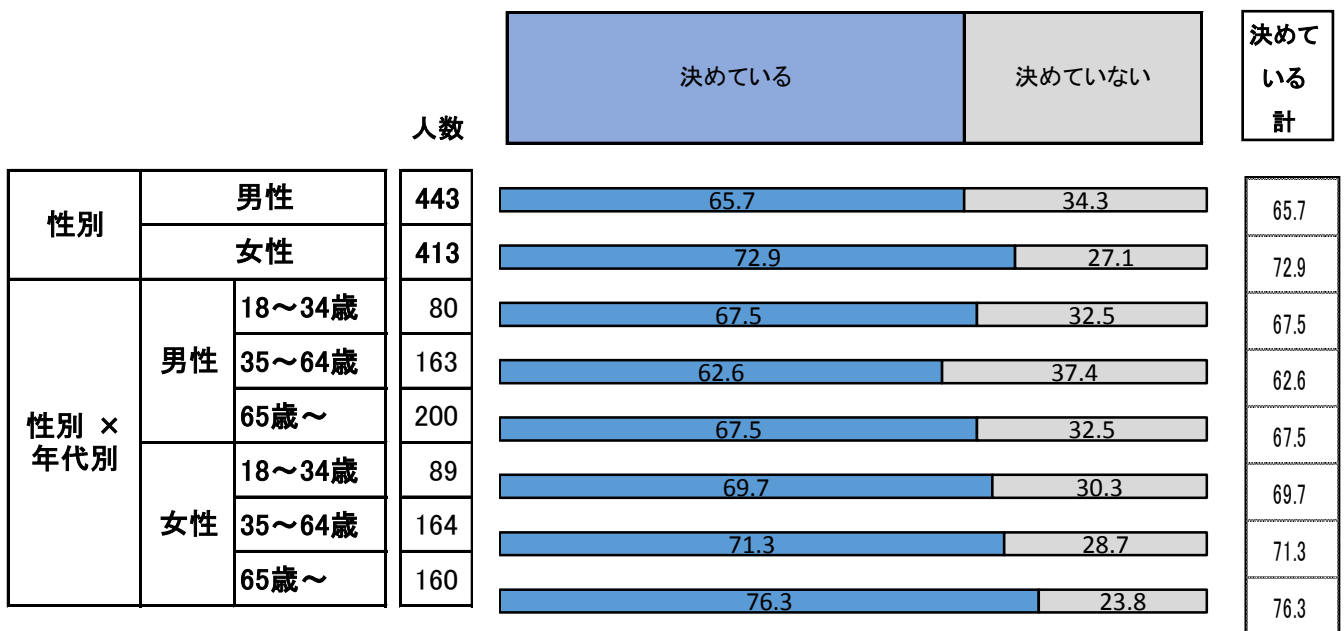
- ☆ 約7割の人は避難場所を決めている。(男性:65.7%、女性:72.9%)
- ☆ 男性・女性とも高年齢になるほど、決めていない人の割合が高くなっている。
- ☆ 男性より女性の方が各年齢層で決めていない人の割合が高くなっている。

日ごろから避難場所や避難経路を決めておくことは、災害時の速やかかつ安全な避難のために不可欠です。引き続き防災関連のイベントや防災訓練の場において、各ご家庭で非常時の避難ルートや避難場所を決めておくように啓発を行い、防災マップの認知度向上と併せて、避難場所を決めている家庭がさらに増えることを目指した一層の普及啓発に努めてまいります。

・各選択肢の構成比の数値は、少数第二位を四捨五入しています。  
そのため、内訳の合計が100%にならない場合があります。



単位 : %  
回答者数 = 856名





2-1 : 高齢者や障がいをお持ちの方など、要援護者(※)への支援が地域で向上していると感じますか。(択一選択)

(※)要援護者:災害時(非常時)の際、ご家族などの援助が困難で何らかの助けを必要とする方、日常生活で見守りや個別支援が必要な方

要援護者(※)への支援が地域で向上していると感じる人は27.4%、感じない人は43.2%。

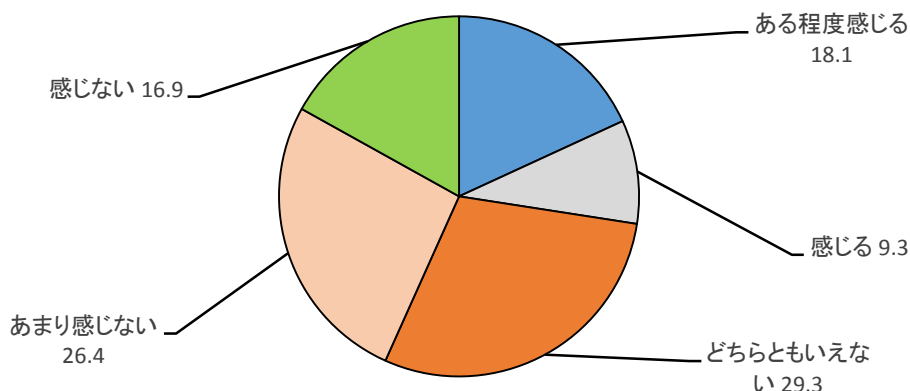
☆ 男性・女性とも高年齢になるほど、感じる人の割合が高くなっている。

誰もが住みなれたまちで安心して暮らしていけるために、平成25年度から当事業を実施し、各地域に地域福祉コーディネーターを配置して、地域での要援護者の把握、地域のボランティア活動の育成と推進等を行い、地域の福祉力が向上することをめざして取組みを行っていますが、地域での要援護者への支援が向上していると感じる方は3割を切っている状況です。平成27年度から新たに要援護者への支援を強化していくため「地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業」を実施し、地域福祉コミュニティの形成をすすめていきます。

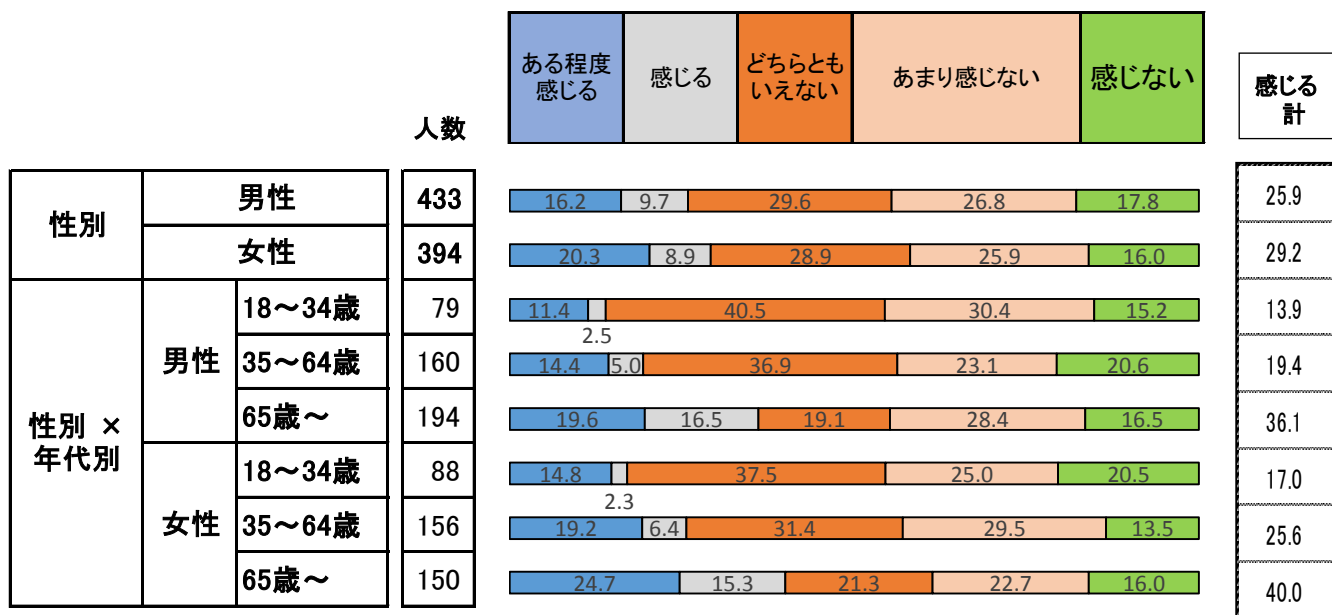
・各選択肢の構成比の数値は、少数第二位を四捨五入しています。

そのため、内訳の合計が100%にならない場合があります。

感じる  
27.4 %



単位 : %  
回答者数 = 827名



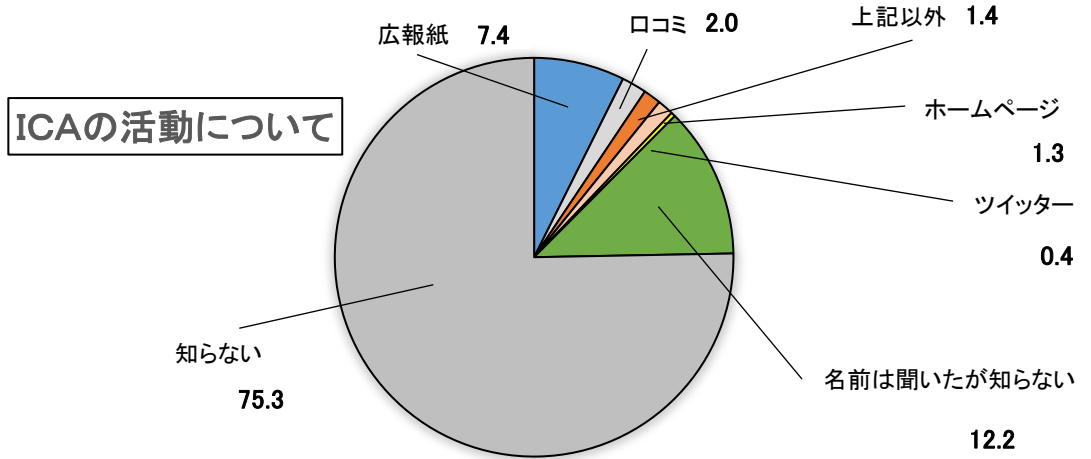
3-1 : ICAの英語教育活動等を知っていますか。(複数回答可)

ICAの活動内容を知っている人は12.5%、知らない人は87.5%。

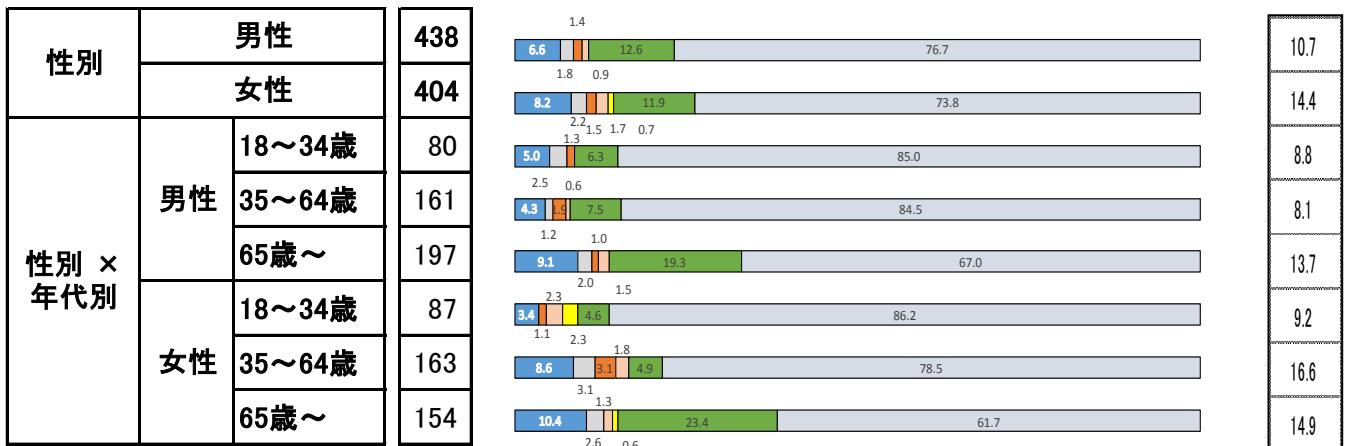
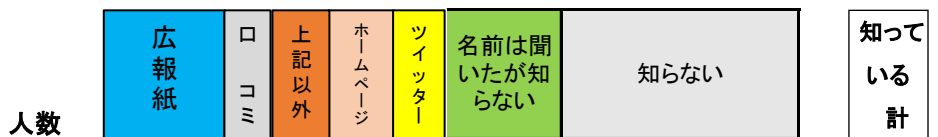
- ☆ 質問内容の上記以外とはテレビ、小学校のプリント、子供から直接聞いた等。
- ☆ 35～64歳の女性が知っている割合が高い。(16.6%)

平成25年6月より区内小・中学校において英語教育のサポートを行っており、同年8月末にはICAツイッターを開設しました。グローバル化が進む中、国内外で生活してきたネイティブスピーカーにより、英語と日本語両方の素晴らしさや文化の違いを子どもたちに伝えることができ、国際的な人材育成の支援に有効であると考えます。ICAの英語教育活動等が広く認知されるよう、今後も広報誌等を活用した情報発信を行い、区の国際化を推進してまいります。

・各選択肢の構成比の数値は、少数第二位を四捨五入しています。  
そのため、内訳の合計が100%にならない場合があります。



単位 : %  
回答者数 = 842名



4-1 : 地域での住民同士の「つながり」や「きずな」について、あなたはどのようにお考えですか。(択一選択)

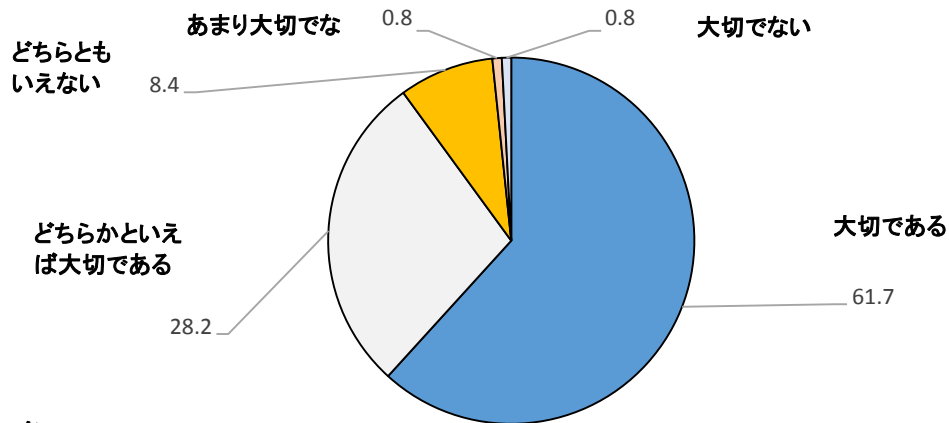
大切であると考える人は89.9%、どちらともいえない人は8.4%、考えない人は1.6%。

☆ 9割の人が大切であると考えている。

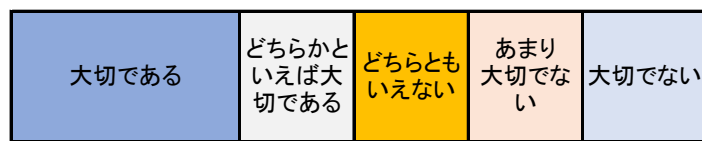
☆ 男性・女性とも高年齢になるほど、大切であると回答(男性:91.9%、女性:95.0%)

⇒前回調査時(平成26年2月実施)でも、94.6%の割合で「大切である」と答え、引き続いて高い割合での区民の方が「つながり」「きずな」を大切と考える意識をもっていることがわかりました。今後も阿倍野区では、あらゆる世代に 地域における「つながり」や「きずな」の大切さを伝え、世代間の協力のもと、地域で支え合い助け合って楽しく暮らせるまちづくりを推進してまいります。

・各選択肢の構成比の数値は、少数第二位を四捨五入しています。  
そのため、内訳の合計が100%にならない場合があります。



単位 : %  
回答者数 = 847名



性別	人数		感じる計						
	男性	女性	大切である	どちらかといえば大切である	どちらともいえない	あまり大切でない	大切でない		
性別	男性	438	60.7	27.6	9.4	1.1	1.1	88.4	
	女性	409	62.8	28.9	7.3	0.5	0.5	91.7	
性別 × 年代別	男性	18~34歳	80	57.5	31.3	10.0	0.5	0.5	88.8
		35~64歳	161	53.4	30.4	12.4	2.5	1.2	83.9
		65歳~	197	68.0	23.9	6.6	0.5	1.0	91.9
	女性	18~34歳	88	53.4	34.1	10.2	1.1	1.1	87.5
		35~64歳	164	56.1	34.8	8.5	0.6	0.6	90.9
		65歳~	157	75.2	19.7	4.9	0.6	0.6	95.0

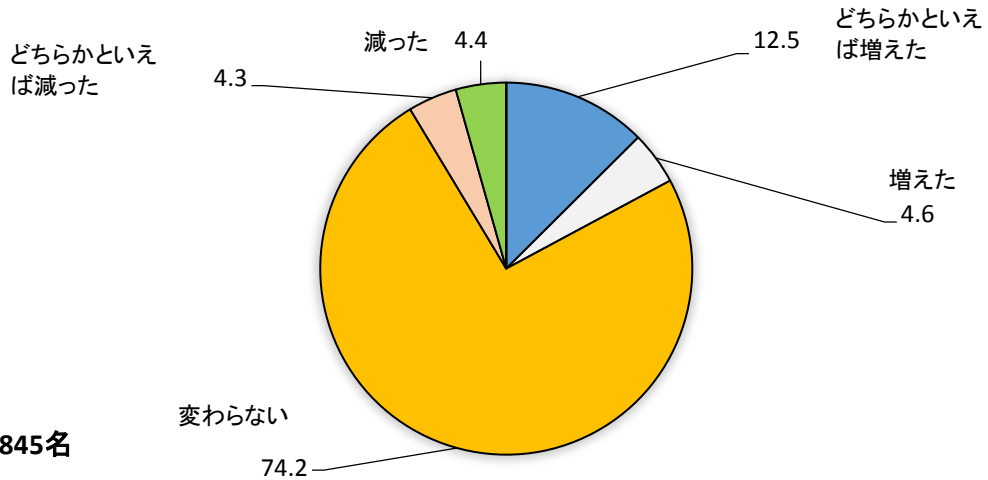
4-2 : お住まいの地域でのご近所づきあいについて、市政改革プランを実行しました平成24年4月までと比べて、日頃からあいさつや立ち話をする程度のおつき合いができる相手が増えたと感じますか。(択一選択)

増えたと感じる人は17.1%、減ったと感じる人は8.7%、変わらないと感じる人は74.2%。

☆男性・女性とも高年齢になるほど、増えたと感じる人の割合が高くなっている。

性別・世代別を問わず、「変わらない」と回答された割合が圧倒的に多い点は、前回調査(77.5%)と同じである。世代ごとに見ると、「増えた」と感じる割合が、男女とも年齢が上がるにつれ上昇する傾向があり、65歳以上では、男女とも、20%を上回っている。  
 今後は、まちなか防災訓練などの、老若男女を問わず誰もが関心のあるイベント実施などを通じて、より地域コミュニティ内でのコミュニケーションが活発化するよう地域活動を支援してまいります。

・各選択肢の構成比の数値は、少数第二位を四捨五入しています。  
 そのため、内訳の合計が100%にならない場合があります。



単位 : %  
 回答者数 = 845名



増えたと感じる計

性別	男性		人数	割合 (%)					増えたと感じる計
	18~34歳	35~64歳		65歳~	どちらかといえば増えた	増えた	変わらない	どちらかといえば減った	
性別 × 年代別	男性		439	12.8	73.1	4.8	4.8	4.6	17.5
	女性		406	12.3	75.4	3.9	3.9	4.6	16.7
	男性	18~34歳	80	13.8	77.5	3.8	3.8	3.9	17.5
		35~64歳	161	9.9	78.9	1.3	6.8	1.3	12.4
		65歳~	198	14.6	66.7	2.5	3.9	1.9	21.7
	女性	18~34歳	87	8.0	85.1	7.1	8.1	1.1	12.6
35~64歳		163	11.7	82.2	4.6	1.1	1.1	12.3	
65歳~		156	15.4	62.8	0.6	6.4	2.5	23.7	

7.1

4-3 : お住まいの地域(主に小学校エリア)で活動している地域団体の活動内容や会計報告が情報誌やHP、回覧板、掲示板など何らかの形で公表されていることを知る機会が平成24年4月までと比べて増えましたか。(択一選択)

知る機会が増えたと思う人は25.5%、減ったと思う人は5.2%。

☆ 「どちらともいえない」人が45.4%、「知らない」人が23.8%。

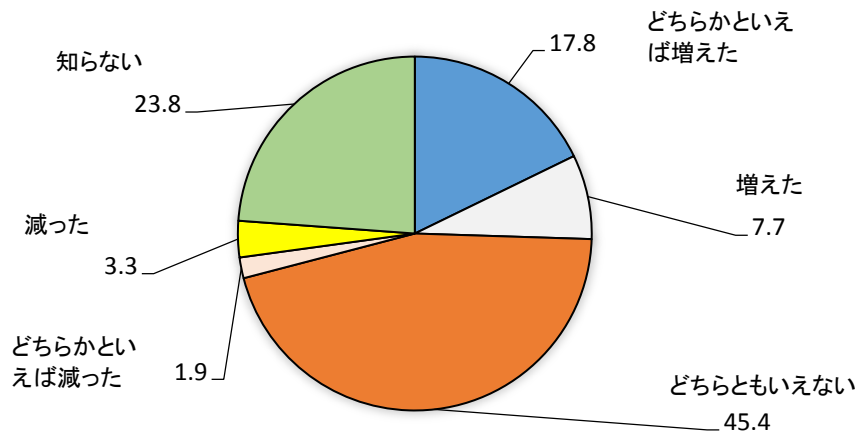
☆ 男性・女性とも高年齢になるほど、知る機会が増えたと「感じる」人の割合が高くなっている。

全体的な傾向は前年調査時と変わらず、約半数の方が「どちらともいえない」という回答となっている。残念ながら、男女とも「知らない」と答えた方(23.8%)が前回(17.6%)より増えているが、世代別に見ると、「増えた」と回答された割合が、全体では25.5%となり、65歳以上では男女とも30%を上回っている。

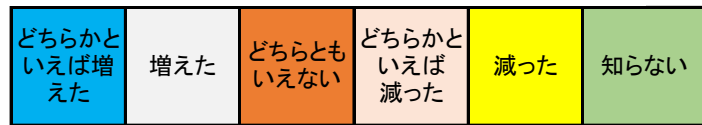
今後は、地域コミュニティ活動の中核を担う、各地域での地域活動協議会の活動について、これまで以上に広報活動の重要性を啓発し、そうした地域活動が多くの住民に周知されるよう支援してまいります。

・各選択肢の構成比の数値は、少数第二位を四捨五入しています。  
そのため、内訳の合計が100%にならない場合があります。

増えた  
25.5%



単位 : %  
回答者数 = 843名



感じる  
計

性別	人数		感じる計						
	男性	女性	どちらかといえば増えた	増えた	どちらともいえない	どちらかといえば減った	減った	知らない	
性別 × 年代別	男性		439	15.0	7.5	45.8	2.3	3.9	22.6
	女性		404	20.8	7.9	45.0	1.5	2.7	28.7
	男性	18~34歳	80	10.0	6.3	38.8	2.5	2.5	16.3
		35~64歳	164	12.8	3.0	51.8	0.6	3.0	15.9
		65歳~	195	19.0	11.8	43.6	3.6	5.1	30.8
	女性	18~34歳	88	18.2	5.7	38.6	1.1	1.1	23.9
35~64歳		163	20.9	6.1	50.3	1.2	2.5	27.0	
65歳~		153	22.2	11.1	43.1	2.0	3.9	33.3	

4-4 : 大阪市では、区役所や関係機関により、地域活動の情報を提供していますが、地域活動を始めたいときにどうすればいいかなど、地域活動に参画しやすい環境が整っていると感じますか。(択一選択)

環境が整っていると感じる人は21.0%、感じない人は39.4%。

☆ 「どちらともいえないと感じる」人は21.3%、「わからない」人は18.3%、

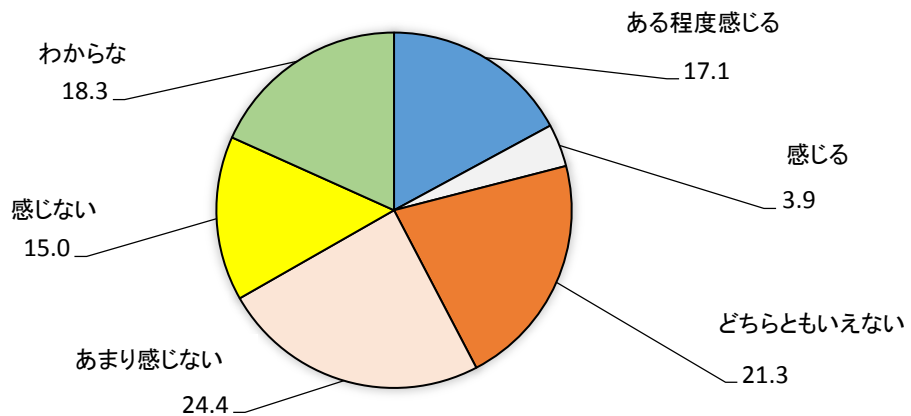
☆ 男性・女性とも高齢になるほど、環境が整ったと「感じる」人の割合が高くなっている。

全体的な傾向は前年調査と変わっていない。地域活動に参画しやすい環境を整えるため、現在各地域でどのような地域活動が行われているかを、幅広く周知する必要があると考えております。

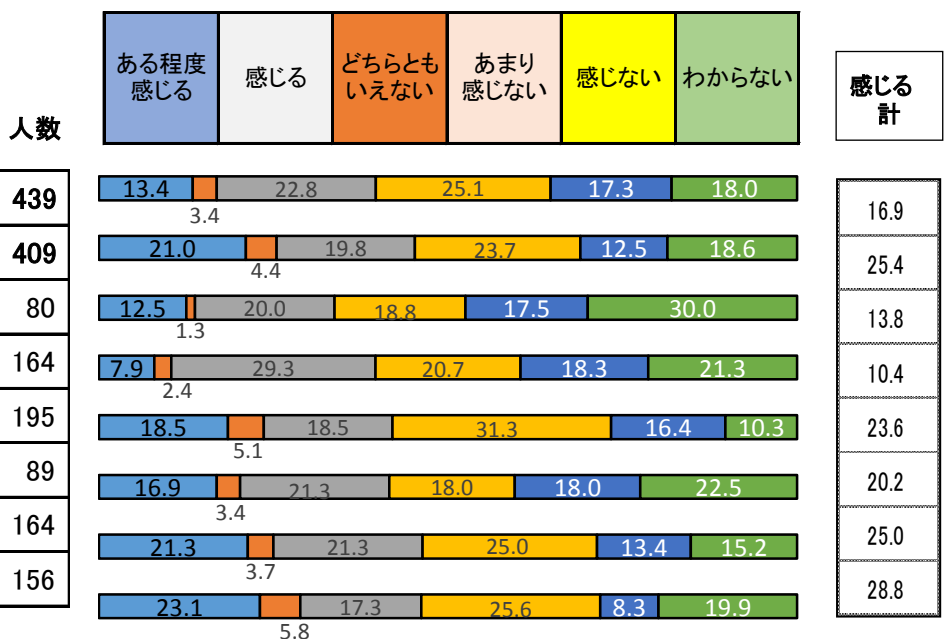
今後は、中間支援組織との連携を強化して、地域活動協議会を初めとする各地域活動の情報発信に一層取り組み、多くの方々が地域活動に参画しやすい環境づくりに努めてまいります。

・各選択肢の構成比の数値は、少数第二位を四捨五入しています。  
そのため、内訳の合計が100%にならない場合があります。

感じる  
21.0 %



単位 : %  
回答者数 = 848名



4-5 : あなたのお住まいの地域では、地域のまちづくりに関する活動が地域団体やNPO、企業などいろいろな団体が連携・協働して進められていると感じますか。  
(択一選択)

連携・協働して進められていると、感じている人は23.7%、どちらともいえない人は22.8%わからない人は28.3%

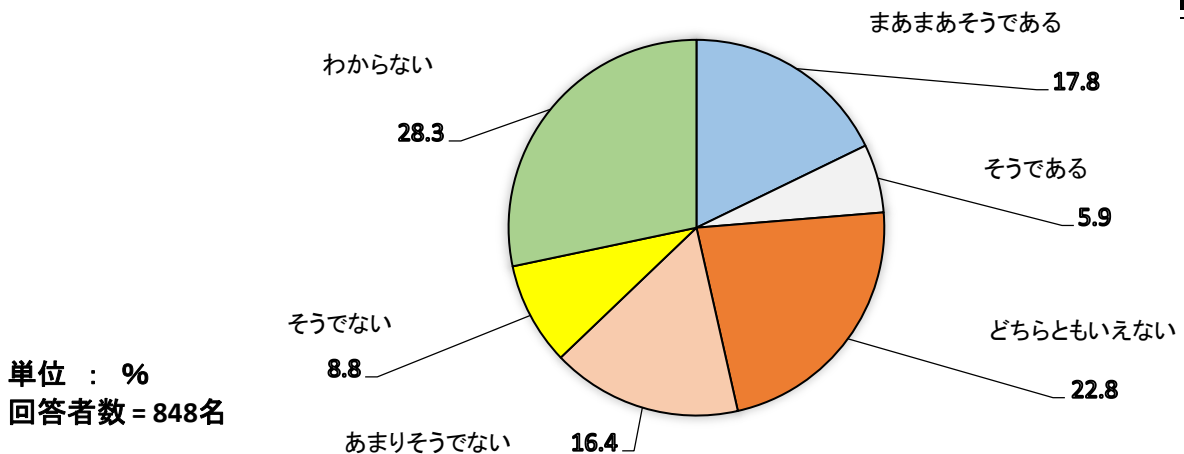
- ☆ 若年層に「分からない」と感じる人の割合が高い。(男性:35.0%、女性31.5%)
- ☆ 男性・女性とも高齢になるほど、進められていると「感じる」人の割合が高くなっている。

全体的な傾向は、前回調査と同様であるが、「感じる」との回答(23.7%)が前回(21.6%)より若干伸び、「感じない」との回答(25.2%)が前回(33.4%)よりも減少しているが、「わからない」との回答(28.3%)も前回(16.7%)より増えている。

性別・年代別では、65歳以上の女性で、「感じる」方が29.0%と、全分類中最も高い値である一方、「わからない」方も32.3%と高い値を示しているが、前回調査結果も同様の傾向を示しており、このことは、65歳以上女性では、地域活動に参加している層と、参加していない層に分かれているのではないかと推測できる。

・各選択肢の構成比の数値は、少数第二位を四捨五入しています。  
そのため、内訳の合計が100%にならない場合があります。

感じる  
23.7%



単位 : %  
回答者数 = 848名



性別	男性		人数	割合 (%)						進められている計
	18~34歳	35~64歳		65歳~	まあまあそうである	そうである	どちらともいえない	あまりそうでない	そうでない	
性別	男性		440	16.4	5.0	24.3	17.0	11.1	26.1	21.4
	女性		408	19.4	6.9	21.1	15.7	6.4	30.6	26.2
性別 × 年代別	男性	18~34歳	80	22.5	3.8	16.3	17.5	5.0	35.0	26.3
		35~64歳	164	12.2	4.3	26.8	14.6	13.4	28.7	16.5
		65歳~	196	17.3	6.1	25.5	18.9	11.7	20.4	23.5
	女性	18~34歳	89	15.7	4.5	21.3	18.0	9.0	31.5	20.2
		35~64歳	164	19.5	7.3	23.2	14.6	6.7	28.7	26.8
		65歳~	155	21.3	7.7	18.7	15.5	4.5	32.3	29.0

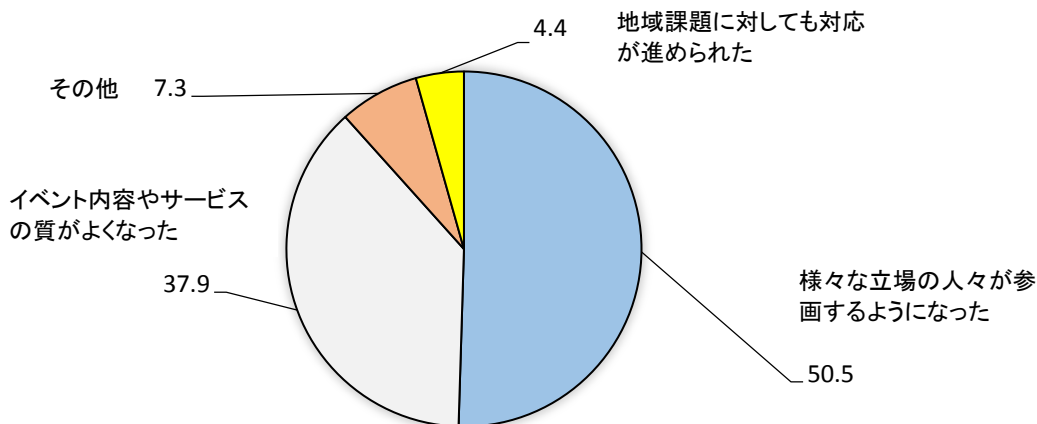
4-6 : 4-5で「地域活動が進んでいると感じる」と回答された方にお伺いします。  
 どのような時に、地域のまちづくりに関する活動が、いろいろな団体が連携・協働して進めていると感じましたか。(択一選択)

イベント内容やサービスの向上の時37.9%、様々な立場の人々の参画50.5%  
 地域課題に対する対応が進んだ時4.4%、その他7.3%

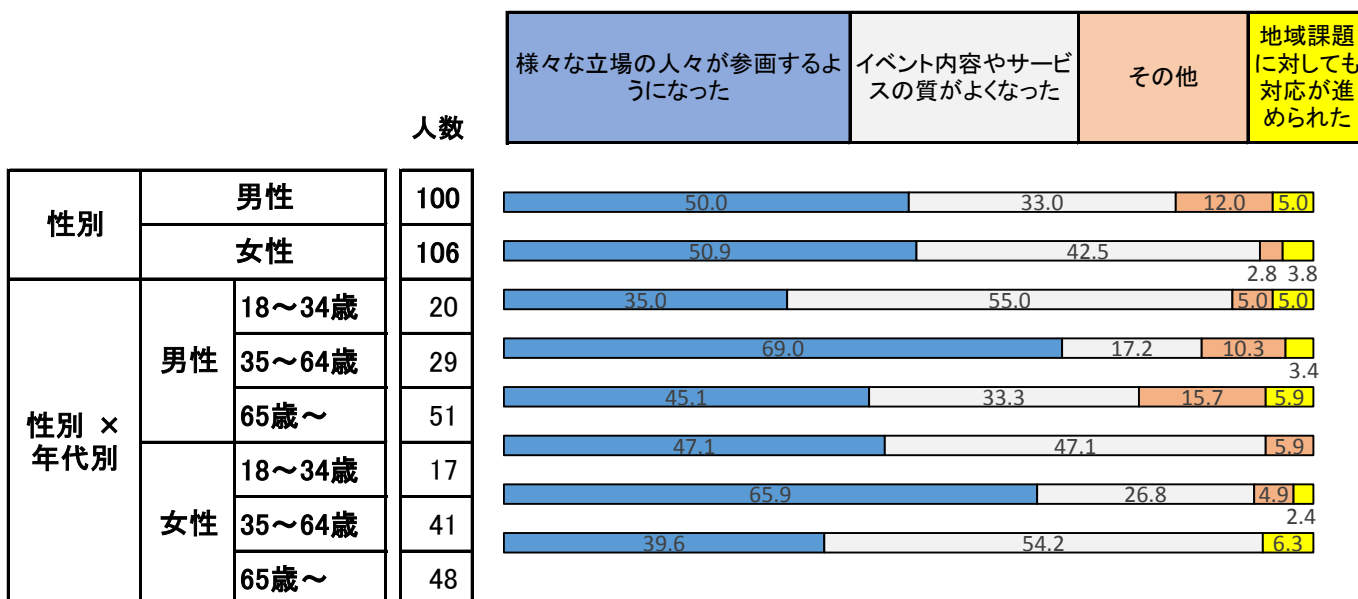
☆ その他と回答された方は、下記のような時に進められていると感じた。  
 ・案内・掲示板を見た時、子育てする立場になったので、ツイッターで、地域に活動的な人がいる、ハルカスができたことで発表の場が増えた、ライオンズクラブの活動、生涯学習教室の参加等。

4-5で「感じる」と答えた方の50.5%が、その理由として「様々な立場の人々が参画するようになった」ことを、37.9%の方が「イベント内容やサービスの質がよくなった」ことをあげているが、これは、各地域で形成された地域活動協議会による、これまでの各団体単位の活動から地域横断的な地活協による地域活動に変化しつつあることが要因のひとつではないかと推測されます。

・各選択肢の構成比の数値は、少数第二位を四捨五入しています。  
 そのため、内訳の合計が100%にならない場合があります。



単位 : %  
 回答者数 = 206名





4-7 : あなたは、これまでに地域活動(※)に取り組んだことがありますか。(択一選択)  
 (※)地域活動:身近な地域の社会環境を良くするために、市民や地域の各種団体、NPO法人、ボランティア団体、事業者などが地域を中心に取組む公益的な活動のこと。

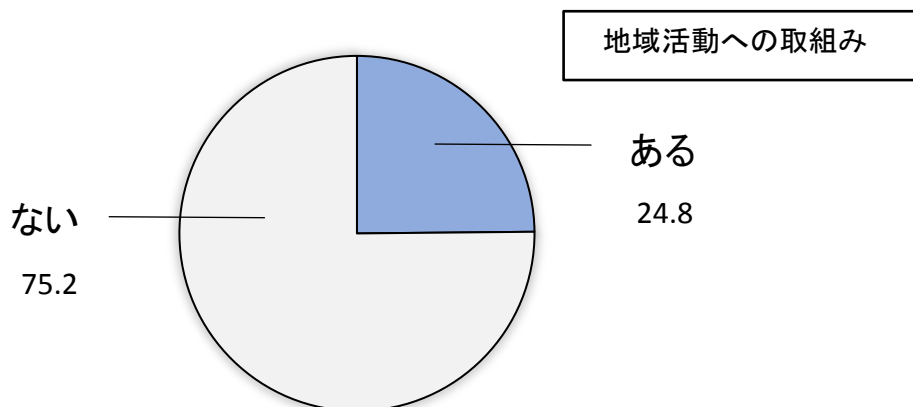
地域活動へ取り組んだことがある人は24.8%、ない人は75.2%

地域活動に取り組んだことのある人の内訳は下記の通り

- ☆ 65歳以上の男性:31.7%、35~64歳の女性:28.6%、18~34歳の男性:26.6%
- ☆ 65歳以上の女性:21.4%、35~64歳の男性:20.5%、18~34歳の女性:15.7%

どの年代も取り組んだことのない方の割合が高い。  
 地域活動へのきっかけとなる情報提供や、地域活動の担い手が増えるよう地域活動協議会の活動の支援をはじめ、多様な地域活動の連携、協働に向けた活動の助言や支援を行う。

・各選択肢の構成比の数値は、少数第二位を四捨五入しています。  
 そのため、内訳の合計が100%にならない場合があります。



単位 : %  
 回答者数 = 833名

			取組んだことがある	取組んだことがない	地域活動への取組み計	
			人数			
性別	男性		429	26.6	73.4	26.6
	女性		404	23.0	77.0	23.0
性別 × 年代別	男性	18~34歳	79	26.6	73.4	26.6
		35~64歳	161	20.5	79.5	20.5
		65歳~	189	31.7	68.3	31.7
	女性	18~34歳	89	15.7	84.3	15.7
		35~64歳	161	28.6	71.4	28.6
		65歳~	154	21.4	78.6	21.4

4-8 : 大阪市では、地域のまちづくりを活性化させるため中立的な立場で、地域の話し合いを進め、人材・情報など地域の資源をコーディネートし、地域特性に応じた活動のマネジメントを行う「地域公共人材」の育成に取り組むこととしています。  
 あなたのお住まいの地域の活動において、このようなコーディネートやファシリテートのできる人材が活躍していると感じますか。(択一選択)

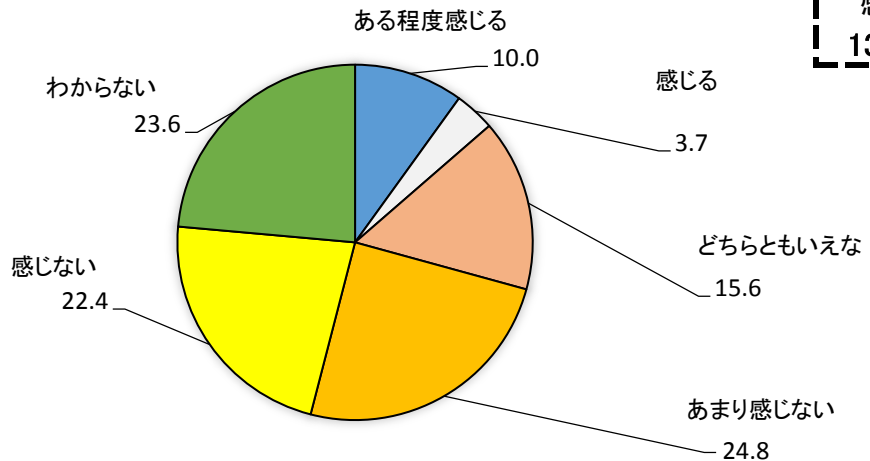
人材が活躍していると感じる人は13.7%、感じない人は47.2%。

☆ 「感じる」人が3.7%、「ある程度感じる」人が9.9%、「どちらともいえない」人が15.6%、「あまり感じない」人が24.7%、「感じない」人が22.5%、「わからない」人が23.6%。

☆ 男性・女性とも65歳以上の人が、活躍していると感じている。

前回調査時の「感じる」と回答の11.3%より「感じる」と回答のあつた割合も増えています。地域公共人材の活躍を感じる割合が増えるように、地域のまちづくりに向けた活動のマネジメントを担う「地域公共人材」についても周知し、活躍できる環境の充実に向け取り組んでまいります。

・各選択肢の構成比の数値は、少数第二位を四捨五入しています。  
 そのため、内訳の合計が100%にならない場合があります。



単位 : %  
 回答者数 = 844名



性別	人数		構成比 (%)						感じる 計	
	男性	女性	ある程度感じる	感じる	どちらともいえない	あまり感じない	感じない	わからない		
性別 × 年代別	男性		434	9.7	4.4	15.2	23.3	25.1	22.4	14.1
	女性		410	10.2	2.9	16.1	26.3	19.5	24.9	13.2
	男性	18~34歳	80	7.5	2.5	16.3	26.3	21.3	26.3	10.0
		35~64歳	163	8.0	1.8	17.8	21.5	26.4	24.5	9.8
		65歳~	191	12.0	7.3	12.6	23.6	25.7	18.8	19.4
	女性	18~34歳	89	6.7	3.4	16.9	28.1	19.1	25.8	10.1
35~64歳		164	8.5	1.2	17.1	25.6	22.0	25.6	9.8	
65歳~		157	14.0	4.5	14.6	26.1	17.2	23.6	18.5	

4-9 : 区役所の効率的な業務運営に向け、区の実情や特性に応じて、取組みが進められていると感じていますか。(択一選択)

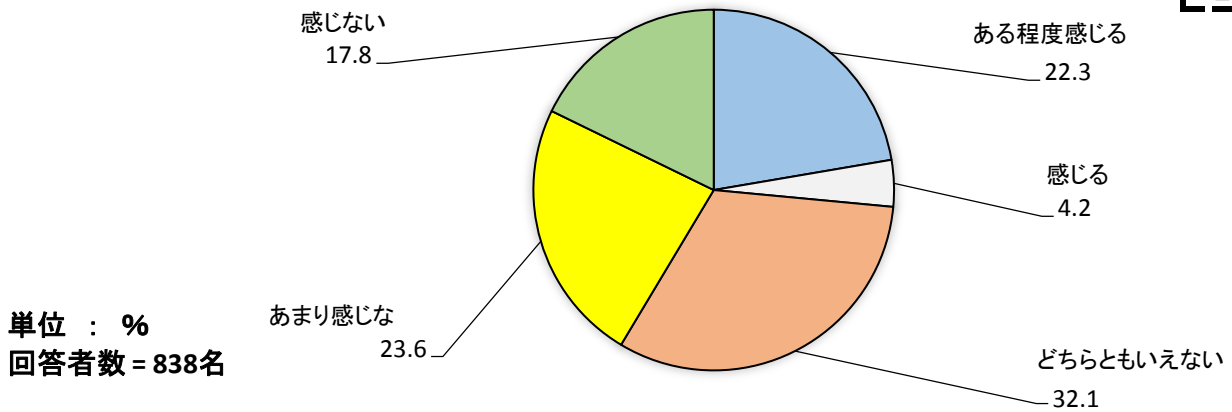
取組みが進められていると感じる人は26.5%、感じない人は41.4%。

- ☆ 「感じる」人が4.2%、「ある程度感じる」人が22.3%、「どちらともいえない」人が32.1%、「あまり感じない」人が23.6%、「感じない」人が17.8%。
- ☆ 男性・女性とも高年齢になるほど、進められていると「感じる」人の割合が高くなっている。
- ☆ 男性・女性とも65歳以上の人が、進められていると感じている。(男性:40.8%、女性:34.6%)

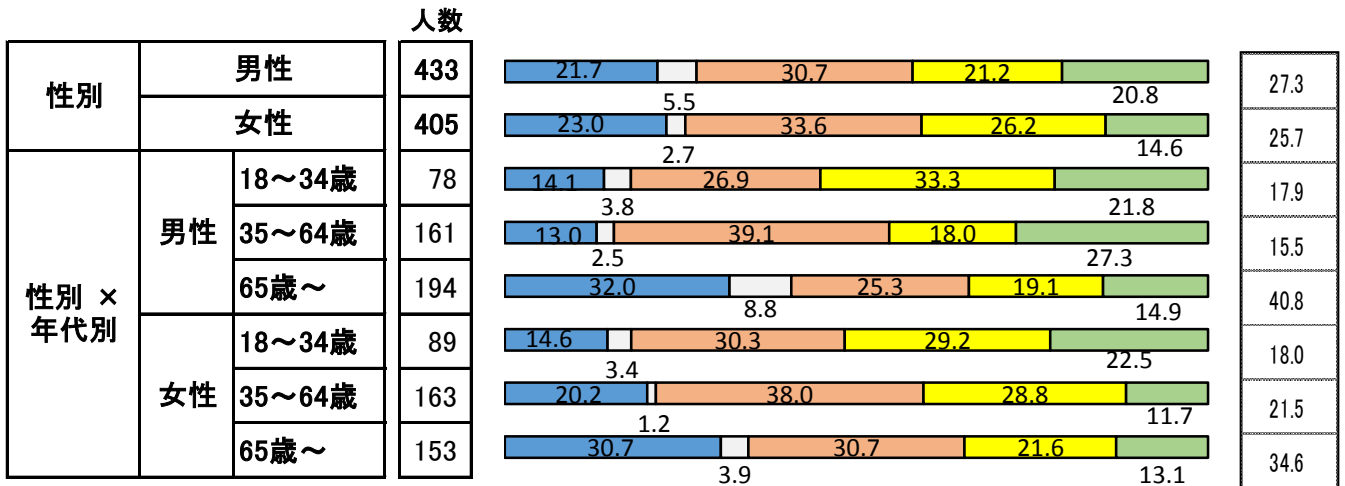
区役所業務の運営について、業務プロセスの改善・事務の集約化などにより、効果的・効率的に運営されるよう様々な取組みを進めるとともに、区民のみなさまへ広報紙やホームページなどで情報発信を行ってまいります。

・各選択肢の構成比の数値は、少数第二位を四捨五入しています。  
そのため、内訳の合計が100%にならない場合があります。

感じる  
26.5%



単位 : %  
回答者数 = 838名



4-10 : コミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスという言葉をご存知でしたか。(択一選択)

知っていた人は37.1%、知らなかった人は62.9%

上記の言葉を知っている人の内訳は下記の通り

☆ 65歳以上の女性:43.4%、65歳以上の男性:40.1%、18~34歳の女性:38.6%

☆ 35~64歳の女性:37.6%、18~34歳の男性:34.2%、35~64歳の男性:27.2%

前回調査時に比べて、知っていた方が25%であったが、増えています。

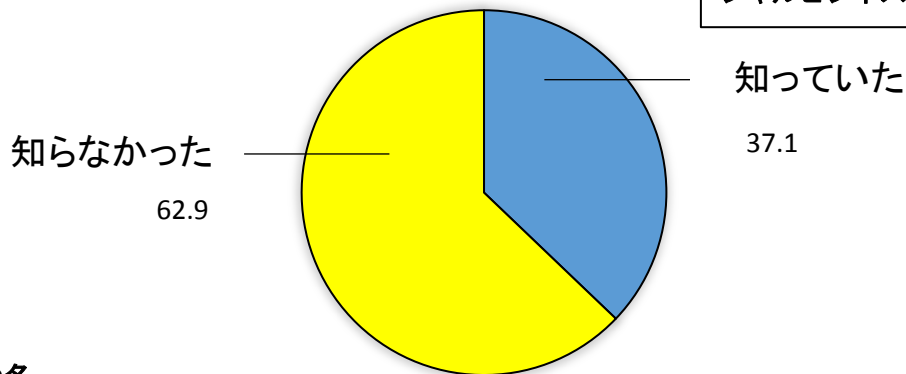
コミュニティ・ビジネス/ソーシャル・ビジネスとは、地域自らが地域の課題を解決するために、地域資源(ヒト・モノ・カネ・情報など)を活用しながらビジネス(有料サービス)として継続的に展開し、地域を元気にする事業で、地域の利益を目的にした取り組みです。

区役所としても、コミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスの意義やメリットを周知するとともに、ビジネス化を支援し、地域での雇用創出・資金循環につなげてまいります。

・各選択肢の構成比の数値は、少数第二位を四捨五入しています。

そのため、内訳の合計が100%にならない場合があります。

[コミュニティ・ビジネス]、[ソーシャル・ビジネス]という言葉



単位 : %  
回答者数 = 840名

		人数		コミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスという言葉は知っていた		コミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスという言葉は知らなかった		知っていた計
性別	男性	435	34.5	65.5	34.5		34.5	
	女性	405	40.0	60.0	40.0		40.0	
性別 × 年代別	男性	18~34歳	79	34.2	65.8	34.2		34.2
		35~64歳	162	27.2	72.8	27.2		27.2
		65歳~	194	40.7	59.3	40.7		40.7
	女性	18~34歳	88	38.6	61.4	38.6		38.6
		35~65歳	165	37.6	62.4	37.6		37.6
		65歳~	152	43.4	56.6	43.4		43.4